



太秦地域は、太秦学区・南太秦学区・嵯峨野学区の3つの学区を含んでいますが、それぞれ地域のつながりが深く、自治会活動も活発で、活気のある地域です。

【太秦学区のアピール】

太秦学区は、全国的に有名な名所旧跡が白拍子の、歴史と伝統に育まれてきた地域です。子どものころは仏隆寺や嵐の社などを遊び場に、また映画産業が盛んなころはまちなかで映画俳優に出くわすこともしばしばでした。こうした歴史を身近に感じながら暮らすところ太秦学区の魅力ではないかと思ひます。今も生きる歴史と伝統に触れながら、ゆったりと時間を過ごして、太秦らしい暮らしを満喫していただければと思います。

【南太秦学区のアピール】

南太秦は嵯峨野や太秦に比べれば若い学区（40年）。あえて魅力を挙げるとするならば、自然が未だ多く残っているところではないでしょうか。田畑もあるし、4月に咲く有栖川の桜は本当にきれいだ。最近の子供たちはゲームなどをして家に引きこもりがちだといわれるけれど、ここでは子どもたちが外で走り回り、川や畑などをとって遊んでいます。このように自然環境が良いのが南太秦の魅力ではないかと思ひます。

【嵯峨野学区のアピール】

住んでいる人すらご存じないような、マイナーな見所がたくさんあるところが嵯峨野学区の誇れる部分。「ここっ！」というポイントよりも、たっぷり時間をかけて学区をすみずみ歩き、見て、聞いて、楽しんでもらえればと思ひます。山や川、田んぼなど、自然の風景を満喫できることに加えて、親切でありがたい人たちがたくさんいることが嵯峨野の魅力です。ぜひ、一度足を運んでみてください。



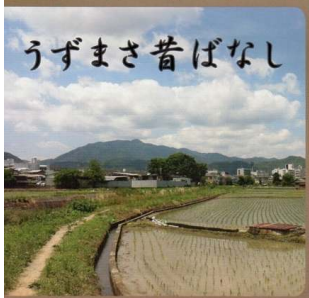
地域のふれあいカフェのコーマ（南太秦学区のふれあいサンデーモーニングより）

地域のつながりづくりの活動が広がっています。

近年、子どもからお年寄りまで安心して暮らせるために、地域のつながりづくりが見直されています。地域の交流の場づくり、居場所づくりの取組も広がっています。

わたしたちの太秦学区・南太秦学区・嵯峨野学区でも、地域のみなさんが気軽に立ち寄れる交流の場、居場所づくりの一環として、ワンコインカフェの取組が進められています。みなさんが気軽に集まり、コーヒーとモーニングをいただきながら、楽しく時間を過ごされています。中でも南太秦学区の「ふれあいサンデーモーニング」は、平成21年から毎月2回（第1・3日曜日）継続して取組が進められ、地域のみなさんに定着してきました。

こうした楽しいサロン、お互いに顔を合わせてお話をすることが、地域のつながりをつくり、近所づきあひもなく孤立してしまうのを防ぎかけになります。お年寄りからお子さんまで、御家族みなさんで立ち寄ってみてはいかがでしょうか。



【三吉福荷】

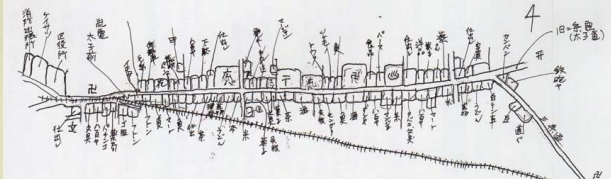
三吉福荷のある場所の地名は多敷町、かつては竹藪だらけの土地だったらしい。昭和3年、その竹藪を切り開いて日活撮影所が造られた。当時、この竹藪の中に三吉福荷大神と中里八幡大菩薩の小宮があり、狐や狸などの住処になっていましたが、撮影所の工事の際には狐や狸が逃げ出す姿が目撃されたそう。住処を追われた動物たちの供養も兼ねて、お稲荷さんと八幡様と一緒に祀ったのが、現在の三吉福荷神社（日活の人達が建てられました）。ここには「日本映画の父」とも呼ばれる牧野省三の大きな石碑もあり、その石碑の裏には、牧野の孫にあたる長門裕之、津川雅彦兄弟の名前をはじめ、多くの映画関係者の名前が記されています。現在も映画関係者はお参りに来るそう、日本のハリウッドを今に伝えています。（地域の古者からの聞き取りより作成）

【千代の古道】

梅宮大社から広沢池あたりまで続く、歴史のある道です。平安時代、天皇が御所から嵯峨離宮へ行幸された道の一つといわれています。嵯峨には貴族の山荘も多くあったため、平安貴族もこの道を利用していたといわれ、現在でも数箇所に石碑を見ることが出来ます。この地には、嵯峨通（現在の三条通りができる明治時代までの路中から嵯峨へのメインストリート、太子道（聖徳太子が通ったとされる広隆寺に向かう道）など、由緒ある道が多くあります。明治時代の地図を見ると、そうした道が田畑の中を路中から嵯峨まで伸びているのが分かります。現在でも、こうした道沿いにはかつての集落の風情が残されているところもあり、散策しながら古に思いをはせるのもおもしろいかもしれません。（参考資料『京都大事典』、『京都歴史散策マップ2 千代の古道』）

【愛宕山と比叡山】

むかしむかし、東の比叡山と西の愛宕山は背の高さを競い合っていました。「僕の方が高い！」と愛宕山が言うと、比叡山は「俺の方がもっと高い！」と言い返します。2つの山は毎日毎日言い争ってはかりました。ある日、比叡山は良いことを考えました。「愛宕山の背を、低くしたろ…」そして、なんと、愛宕山の頭をゴツン！と叩きました。「痛ったー！」愛宕山は叫びました。すると愛宕山の頭にもみるみるコブができてしまい、比叡山よりも愛宕山の背の方が高くなってしまいました。愛宕山は「僕の勝ちや！」と大喜びしましたとさ。比叡山の標高848.3m、愛宕山の標高924m。事実、愛宕山の山頂はコブ状の形をしているので、2つの山は本当に喧嘩していたのかもしれない。（地域の古者からの聞き取りより作成）



【思い出の三条通り】

このマップを作るにあたって、地域のみなさんにかつての太秦をたくさん語っていただきました。参加者のお一人にかつての三条通の店の様子を描いていただきました。にぎわっていた当時の様子が伝わってきますが、しっとり描いておられたことが素晴らしいですね。こうしたみなさんの思い出や記憶を集めて、お話するのも楽しいですよ。

てくてく太秦 ~まちあるき散策マップ~

映画のまち・太秦



懐かしい風景のまち・太秦



- 【緊急連絡先】
- 右京区役所・福祉事務所・保健センター 075-861-1101
  - 右京警察署 075-865-0110
  - 右京消防署 075-871-0119
  - 京都市西部土木事務所 075-871-6721
  - 京都市上下水道局右京営業所 075-841-9184
  - 京都市西部まち美化事務所 075-882-5787

【発行】

右京区役所地域力推進室  
太秦自治連合会、南太秦自治連合会、嵯峨野自治会連合会  
平成25年3月31日発行 京都市印刷物番号255013号

てくてくいきもの図鑑 ~見つけた生き物をチェック!~



てくてく豆知識 ~サイフォン (A-2)~

“サイフォン”を知っていますか？  
サイフォンと聞くと、コーヒーマーカーをイメージされる方が多いかと思ひます。今回ご紹介するのは、有栖川と西高瀬川の立体交差のことで、サイフォンとは、水の引く張る力を利用して、低い地点から高い地点へ水を流す原理です。この立体交差は逆サイフォン、低い地点に一度水を引き込み、高い地点（元の水位）へ噴き出させる仕組みです。サイフォン式コーヒーマーカーとは逆になります。  
木材運搬と西高瀬川、そして“サイフォン”  
西高瀬川は、桂川上流で切り出した木材を京都に運搬するため、江戸時代後期に開削された人工河川です。西高瀬川沿いの嵯峨野学区、千本三条から南の地域などでは古くから製材業が発達してきました。さてお気づきでしょうか？ 西高瀬川を運ばれてきた木材は、このサイフォンで行き止まりになります。現在私たちが目にするサイフォンが作られたのは、西高瀬川が木材運搬の役割を終えた昭和になってからです。まちを歩いて地域の歴史を垣間見るのも素敵かもしれません。（参考『史料 京都の歴史 14 右京区』）

